

# 令和6年度東部地区ステップ・アップ研修 実施報告

## 1 目的

ステップ・アップ研修は、初任者研修を踏まえるとともに、1年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を目的とする。

## 2 期日

第1日（7月25日）オンライン型研修  
第2日（8月6日）参集型研修

## 3 受講者数

344人
小学校等教諭 224人
中学校等教諭 120人

## 4 日程

### <第1日> 令和6年7月25日（木）【全日：所属校研修（オンライン）】

- ・講話「よさ・持ち味を生かす」

東部教育事務所 所 長 三田 秀典

- ・講義1「東部の教育を担う教員について」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当  
主席指導主事 佐藤 泰弘

- ・講義2「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当  
主席管理主事 向後 健一

- ・講義3「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所 指 導 主 事 加藤 雄大

- ・講義4「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営の充実」

東部教育事務所 指 導 主 事 富山 めぐみ

- ・講義5「道徳教育の充実 ～道徳科の授業づくり～」

東部教育事務所 指 導 主 事 秋山 香奈子

- ・講義6「よい授業のポイント（授業づくりについて）」

東部教育事務所 指 導 主 事 安達 一樹

- ・講義7「先輩に学ぶ」

吉川市立栄小学校 教 諭 伊藤 さゆり

- ・受講者代表「教員生活2年目を迎えて」

白岡市立篠津中学校 教 諭 松岡 理帆

### <第2日> 令和6年8月6日（火）【全日：蓮田市立蓮田南小学校（参集）】

- ・協議1「第1日の講義動画を振り返って」
- ・協議2「生徒指導に関する課題と指導の工夫」
- ・協議3「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」
- ・協議4「道徳授業における指導方法の工夫」
- ・協議5「学習指導における実践と今後の課題」

#### 【協議の主な流れ】

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1 協議のテーマ説明 | 3 発表共有（全体にて） |
| 2 協議（各班にて） | 4 指導講評       |

## 5 内容・受講者感想

### 第1日

#### 講話 よさ・持ち味を生かす

東部教育事務所 所長 三田 秀典

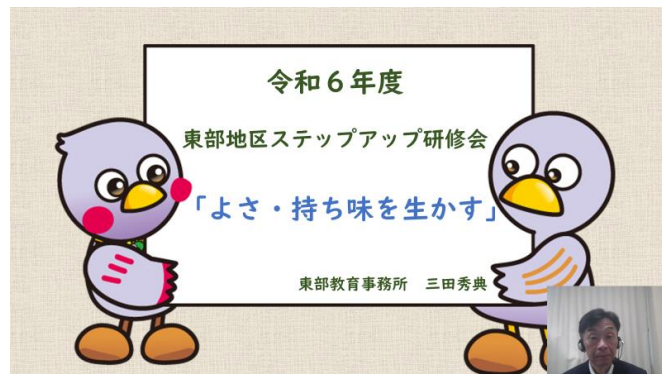
- 1 職業人として
- 2 教師として
- 3 先輩や同僚から学ぶ

#### 【受講者感想】

◎職業人として、「自分らしさを生かす」

そして「自信につなげる」といったお話がありました。昨年は、日々の授業や研究授業に追われ、できない自分ばかりに目がいってしまっていたように思います。しかし、「あなたのよさは何ですか」と聞かれた際に、いくつか出てきた自分に驚きました。明るい・真面目・人との関わりが好きなどです。それらは、日々の子供との関わりで生かされています。これから、もっとよさを伸ばしていきたいです。

◎私のよさ・持ち味は、どんなことでも前向きに取り組める明るさと責任感です。「生徒は自分らしくいきいきした先生に魅力を感じる」という言葉にはっとさせられました。自信を持つ生徒、自己肯定感が高い生徒になってもらうためにはまずは私自身がそうなれるように頑張らないといけません。そのために、所長さんが最後に話されていたように、常に貪欲な姿勢で先輩や同僚から学び続け、子どもたちとの信頼関係を築きながら、ゆっくりじっくりと成長していきたいと思います。



#### 講義 1 「東部の教育を担う教員として」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当  
主席指導主事 佐藤 泰弘

- 1 東部の教育を担う教員として
  - (1) ステップ・アップしていますか
  - (2) 信頼される教員となるために
  - (3) 児童生徒理解と保護者理解
- 2 ステップ・アップ研修に臨むにあたって
  - (1) 「学び続ける教師」としての姿勢
  - (2) 縦・横のつながりを大切に
- 3 この言葉を…

#### 今日の内容

- 1 はじめに
- 2 東部の教育を担う教員として
- 3 ステップ・アップ研修に臨むにあたって
- 4 おわりに
- 5 この言葉を…

#### 【受講者感想】

◎東部の教育を担う教員として、信頼される教員となるために、私は子供たち一人一人のよさを伸ばし、自信をつけさせるため、当番や係活動などを充実させ、自己肯定感を育む学級経営に力を入れたいと強く思いました。また、受け身ではなく、学校のチームの一員として任された校務分掌や学校のためにできることを、積極的に見つけ、実践していき、学校の力になれるよう努力したいです。

◎東部の教育を担う教員として、「信頼される教員」を目指していきたくて思いました。子供たちからはもちろん、同僚の先生、保護者の方々など、信頼がなければ良い教育活動ができません。そのために、日々のコミュニケーションはもちろん、授業作りに対する熱意、専門家としての知識を身につけることを大切にしていきたいです。「教師たるもの五者たれ」という言葉が心に残り、教師にとって確かにそうであると共感しました。

## 講義 2

### 「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当

主席管理主事 向後 健一

- 1 私たちの身分
- 2 教員としての心得
- 3 教員としての服務

#### 2 教員としての心得

##### 〔埼玉県が求める教師像〕

- (1) 健康で、明るく、人間性豊かな教師
- (2) 教育に対する情熱と使命感をもつ教師
- (3) 広い教養と専門的な知識・技能を備えた教師



#### 【受講者感想】

- ◎埼玉県が求める教師像を再確認し、3つの項目それぞれに当てはまるふさわしい教員になれるように、自分自身の教員としての仕事に自覚と責任を強く感じ職務を遂行していきたいです。どのような教員になりたいかを自分自身も持っていることで、その思いがブレることはなくなるので、それを持っていたいと感じました。また、地域の信頼、保護者の信頼、子供たちの信頼があってこそこの今だと感じるので、迅速丁寧に対応して、多くの人から信頼される教員になりたいと強く感じました。
- ◎今年度に入ってから、すでに管理職から不祥事についてのお話が数件ありました。話を聞いたときは同じ教員として信じられないと思いましたが、他人事で済ましてはいけないと感じました。私は私が目指す教師像に近づけるよう、これからも教師の自覚と責任を持って務めるとともに、報告・連絡・相談を密にするなど同僚や諸先輩方と連携し、不祥事防止に取り組んでいきたいと考えました。

## 講義 3

### 「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所 指導主事

加藤 雄大

- 1 生徒指導とは
- 2 普段の学校生活では、実際にどのようなことをしているのだろうか？
- 3 演習（生徒指導ハンドブック I's 2019 より）

#### 【受講者感想】

- ◎生徒指導の対応にあたり、「個人」よりも「組織」で行うことが圧倒的に多いことに気づきました。もしいじめが起きてしまったら、学年主任や生徒指導主任を通じて、管理職に報告等するなど、学校のいじめ防止対策組織で情報共有し対応していきたいです。また、いじめが起きないように、普段から温かい学級づくりやいろいろな人と協力して児童理解を細やかにすることを大切にしたいです。

#### 生徒指導提要

令和4年12月

文部科学省

文部科学省

#### 12年ぶりの改訂

子供たちを取り巻く環境が大きく変化する中、いじめの重大事態や児童生徒の自殺者数の増加傾向が続いており、極めて憂慮すべき状況にある。

#### 基本的な構成

第I部「生徒指導の基本的な進め方」  
第II部「個別の課題に対する生徒指導」

#### 生徒指導の目的（生徒指導提要より）

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。



1 生徒指導に関する現状

◎生徒指導をする上で、子供の普段の様子と異なる部分を早急に察知し対応にあたるのが大切だと考えました。そのために私は普段の生活の中でロッカーや机の中の整理整頓、生活記録帳でのコミュニケーションを通じて子供の心の声をすぐに拾える体制を構築します。また、一度解決に向かったら対応を終わらせるのではなく定期的な面談を通して、生徒の様子を観察していくべきであると考えました。

## 講義 4

### 「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営の充実」

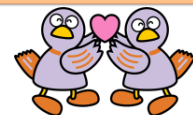
東部教育事務所 指導主事 富山 めぐみ

- 1 みんなが分かる授業づくり
- 2 特別支援教育に関する情報提供
  - (1) インクルーシブ教育システムについて
  - (2) 合理的配慮の提供について
  - (3) 交流及び共同学習について

合理的配慮は、障害の診断や障害者手帳を所持する児童生徒だけでなく、障害の可能性のある児童生徒へも提供される

- 「できるか」、「できないか」(0か100か)で考えないようにする。
- どこまでできるのか、何ができないのか、できない理由は何か。
- できないのであれば、代わりにどんな配慮ができそうか。

関係者で合意形成を図る  
合理的配慮を実施してからでも、評価・改善を行う  
(そのためにも個別の教育支援計画・個別の指導計画の役割は重要)



埼玉県マスコット「コロンジ」

#### 【受講者感想】

◎授業における困難を分析し、具体的な課題を見つけることがとても重要だと感じました。困難は同じでも、児童によってその原因が異なることがあるので、その点を丁寧に把握し、それぞれの支援に繋げていきます。児童が何に困っているのか、どうしたらできそうかを一緒に考えていきます。誰一人取り残されることなく、みんなが学べて居心地の良い環境にできるよう、学年や学校で情報共有し、考えていきたいです。

◎全ての生徒が授業を受けやすいように環境を整えていきたいと思いました。使用している掲示物を見直し、授業の見通しをもてるようや工夫、取り組みやすい雰囲気をつくれるようにしていきます。また、生徒同士の学びの中でお互いを認め合い、学ぶことが出来る場をつくるっていくために、多様性を知り理解し合うことを進めていきたいです。そして、生徒一人一人を大切に学級経営や授業を行っていきます。

## 講義 5

### 「道徳教育の充実 ～道徳科の授業づくり～」

東部教育事務所 指導主事 秋山 香奈子

- 1 道徳科において知っておくべきこと
- 2 柔軟な道徳授業をつくるために
- 3 道徳科における評価

#### 【受講者感想】

◎道徳性を養うためには、学級経営の充実や子供の実態を把握することが大切だと学びました。教師の価値感を押し付けるのではなく、子どもたちが主体的に話し合い、充実感をもって「学び合う」という姿勢をもたせられるような授業を展開していきたいです。そのためには、子供の発言に対して問い返しをしたり、今までの概念を覆し葛藤したりできるような主発問・補助発問の準備をしたいと思いました。また、グループ3～4人で話し合せて、色々な意見が飛び交うように工夫していきたいです。

#### 1 はじめに

項目	達成状況
1 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
2 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
3 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
4 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
5 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
6 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
7 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
8 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
9 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
10 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
11 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
12 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
13 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
14 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
15 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
16 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
17 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
18 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
19 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	
20 道徳科の授業計画をしっかりと立て、授業を行う。	



今の自分の道徳科の授業を振り返って、道徳科の授業で行っていることに○を付けてみよう。

振り返った結果をもとに周りの人と話し合い、どんなことが課題となっているか確認しよう。



◎私は道徳の授業が苦手だったので、本講義は有意義なものでした。生徒から色々な意見を聞くだけになってしまうことがあり、自分事として生徒に考えさせる工夫や、話し合う目的を明確に伝える必要性を理解することができました。オープンな質問を問いかけたり、意見の根底を探るような質問を再度投げたりすることで更に深まるのではないかと感じました。生徒が多角的に考え、議論を深めることができるように今後の授業展開を考えていきたいです。

## 講義 6

### 「よい授業のポイント（授業づくりについて）」

東部教育事務所 指導主事 安達 一樹

#### 1 生き生きとした授業

- (1) 児童生徒一人一人の理解
- (2) 十分な教材研究

#### 2 よい授業づくりのポイント

- (1) 「令和の日本型教育」の構築を目指して  
～主体的・対話的で深い学びの実現～
- (2) 先人の言葉から学ぶ
- (3) 授業づくりのポイントチェックシートを活用しよう
- (4) 刊行物・資料の活用

#### 3 埼玉県の教員として「教員としての誇りを大切に」



#### 【受講者感想】

◎「よい授業」をつくるには、事前の準備が大きな鍵を握ることが改めて分かりました。私は、自分の目で見た児童の様子にばかり頼ってしまっていたのですが、前年度までの様子を調べることは、自分の知らない児童の成長過程を知ることになるため、効果的であると感じました。教材研究については、授業づくりの構想を立てるという段階を踏むことで、ねらいとする軸にぶれが生じにくくなり、よい授業をつくることのできるのだと感じました。教師として授業で勝負するために、今後も学び続けていきます。

◎研究授業を行うにあたって、学習指導案の作成時に様々な資料を見たり、他の先生方と話し合ったりしました。その中で、本講義にもあった「単元全体の指導と評価」と「一単位時間の授業の流れ」が何度も挙がりました。ゴールを教師と生徒両方が理解することで、お互いに見通しを持って授業に臨むことができます。研究授業はそれを経験するいい機会でした。今後もこのことを大切に日々の授業に取り組んでいこうと思いました。

## 講義 7

### 「先輩に学ぶ」

吉川市立栄小学校 教諭 伊藤 さゆり

- 1 学級経営で大切にしてきたこと
- 2 授業づくりで意識してきたこと

- (1) 道徳科を例として
- (2) すべての教科で

#### 3 教員としての資質能力の向上のために

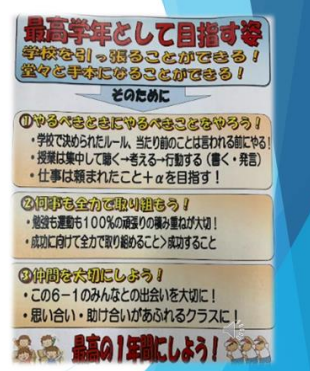
#### 学級経営で大切だと思うこと

##### ★学級開きを大切に

- 1 自分をひらく
- 2 目指す姿
- 3 主体性をもたせる声掛け

##### ★規律

- 1 必要感をもたせる
- 2 プライドをもたせる
- 3 まずは1つ。できたら次へ



## 【受講者感想】

- ◎子供たちを理解するためには、教師自身が自分を開いていくということが、とても大切だと痛感しました。また、先生が頑張っている姿は子供たちにも届いて子供たちが頑張るきっかけにもなるとお話を聞いて思いました。教師同士のつながりに関しては、自分からたくさんコミュニケーションをとって良好な関係性を構築していきたいと思いました。先輩の話聞いて子供たちに会いたくなりました。二学期が楽しみです。
- ◎10年以上も教職に携わってきた先輩が重要視していることが「学び続ける姿勢」ということです。先輩に学び、同僚からも学び、子供たちとも学び、というように常に学び続ける姿勢が大切だと思いました。また、向上心も一つの重要な資質であると感じました。挑戦することについて、ワンランク上の自分へと成長するために、挑戦し、吸収に繋げることも必要だと思いました。

## 受講者代表発表

## 「教員生活2年目を迎えて」

白岡市立篠津中学校 教諭 松岡 理帆

### 1 1年目の成果について

- (1) 授業
- (2) 生徒との関わり
- (3) 副担任として

### 2 2年目を迎えて

- (1) 学級
- (2) 委員会活動
- (3) 授業

### (1) 授業 ③ 学び合い

## 授業の中に必ず 学び合いの活動を取り入れる

- ・プリントを交換する
- ・ICTを活用する
- ・話し合う

○コラボノート  
○スライド

○話し合うポイントをはっきりさせる  
○ルールを決めておく

## 【受講者感想】

- ◎特に掲示物の作成について、1年目に取り組んだ事例をもとに、私も写真を多く取り入れ、子供たちの思い出を増やしていきたいと思えます。また、私は子供たちや保護者と信頼関係を築き、家庭と学校と一緒に児童を育てられるようにしていきたいと考えています。そこで、児童とは一緒に遊んだり、褒めることを意識したりして、たくさんの良さを見つけていき、家庭に児童のよさや成長したことを伝えていきたいです。
- ◎自分自身も担任をしているため、日々たくさん学年やクラスのために尽力されていることがより伝わりました。私はクラスの生徒たちが卒業のときに「このクラスでよかった」と思ってもらえる学級を目指し、今後も子供たちのために成長し続けなければならないと感じました。また、学級通信の発行など、生徒や保護者に対しても、担任としての思いや願いが伝わるように工夫していきたいと考えています。

## 第2日

### 協議1 「第1日の講義動画を振り返って」

- ◎よさや持ち味を生かすことの大切さを再確認できました。自分の良いところを見つけ、伸ばし、短所が長所で薄まるくらい極め、自信を持って仕事できるようにしていきたいです。また、子供の良いところを子供自身が気づき、自己肯定感を高めることで、前向きに過ごせるように手助けすることが教員の重要な役割だと思えました。そのために、普段から一人一人をよく観察し、よさを見出し、よさを生かせる場面を意図的に作っていこうと思います。

◎協議を通して、どの先生方も教員としての心構えや教師の在り方について、自分の考えを明確にもって話していました。改めて、生徒の自己開示を支援する前に、教員自身が生徒の前で自分らしくいることが安心感や信頼を与えるのだと学びました。今以上に、生徒や保護者、同僚の先生方との信頼関係を築くために邁進していきたいです。

## 協議 2 「生徒指導に関する課題と指導の工夫」

◎生徒指導の対応について、事例をもとに、早期発見・早期対応・早期解決が必要であったり、管理職等に相談したりすることが重要であると学びました。また、問題が起こらないようにするために、日頃から子供たちとコミュニケーションをとることや約束事を共有することが大切であり、すべての子供たちにとって「心の居場所」づくりにしっかりと取り組んでいきたいです。加えて、子供たちが「自己決定」できる場も意図的に取り入れていきます。

◎生徒指導について大切なことは、組織的に早期対応を徹底することです。また、必要に応じて、専門機関等と連携することが重要であると学びました。今後に向けて、生徒理解に努めるためには、多くの時間を生徒と過ごすことの大切さや保護者との良好な関係性のもと、協力体制を構築することが大切になることを学びました。



## 協議 3 「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」

◎特別支援教育では、児童も多様化しているため、対応の難しさが課題となると思いました。例えば、外国籍や学習障害の児童などへのアプローチの難しさも話題となりました。担任一人で対応するとなると、読み書きが難しい児童などへの対応が追いつかないのが現状です。教え合いなどの協働的な学びを活用したいです。また、「起きている事象の理由や背景を考える」ことの大切さを話していたことが印象に残りました。得意なことやよさを生かすことを前提に、児童と関わっていきたいです。

◎特別支援教育の視点から、日々の授業や学校生活に生かせる点について協議しました。生徒をできるかできないかで判断するのではなく、合理的配慮の視点からどこまでできるのかなど、個別のニーズに合わせて教育的指導を行っていく必要があると学びました。また、教室環境も重要であり、目に入るところに掲示するのではなく、極力刺激を軽減させ学習に集中できる環境を作っていきたいと考えています。



## 協議 4 「道徳授業における指導方法の工夫」

◎道徳の授業では、学ばせたい道徳的価値を教員がしっかりと理解した上で、1時間でのゴールを設定することが大切だと思いました。その価値に向け、多面的・多角的に話し合えるように、2学期からは発問や活動の工夫をしていきたいです。

◎「道徳授業の振り返りシート」をもとに、授業時の抑えるべき点が確認でき参考になりました。生徒が問題意識をもち、自分事として取り組めるような工夫が必要であり、道徳の授業だけで終わらず、全ての授業で生きるような取り組みを行っていくことが大事だと思います。色々な意見を知ることが考えの幅を広げることにつながると思うので、ICTを活用してクラス全体の意見を共有するなど、今後も、授業で有益な実践を行ってきたいです。

## 協議 5 「学習指導における実践と今後の課題」

- ◎個別最適な学びと協働的な学びを分けるのではなく、1時間の授業に往還的に取り入れる必要があります。これまでの教育実践を振り返ってみると、どちらかに偏っていることも多くありました。特に、個別最適な学びとは、習熟度別のプリントを自己決定させたりするなど、授業内で取り入れられることを知りました。協働的な学びでは、ICTを使って、クラスの意見を見たり分類したりすることができ、目的に応じた活用を行っていきたいと思いました。
- ◎教科ごとに学校の実態や取り組んでいることを共有することができました。信頼される教員になるために、授業力の向上を図ることの大切さを改めて実感しました。そのためにも十分な教材・教具の研究、生徒の把握、指導から評価までの見通しを持った授業を行うことの重要性を確認できました。生徒にどのような力を身に付けさせたいか、授業展開を考える上でしっかりと意識していきたいと思いました。

※【受講者感想】は、標記の都合上、文末等を変更しています。

### 6 受講者のアンケート結果

質問項目	回答率 (%)				平均
	4	3	2	1	
1 研修に意欲的に参加することができた	84.5	15.2	0.3	0.0	3.8
2 研修の内容は、実践的で役立つものだった	79.0	20.4	0.6	0.0	3.8
3 研修に参加して疑問や不安を解消できた	54.5	42.0	3.4	0.2	3.5
4 研修で学んだことを今後に生かしたいと思う	87.8	11.9	0.3	0.0	3.9
5 研修に満足している	74.7	23.6	1.4	0.3	3.7

\* 4 (あてはまる) ←→ 1 (あてはまらない)

### 7 成果

- ・昨年度から、第1日がオンライン型、第2日が参集型の研修形態となっている。第1日の講義内容を踏まえ、第2日の協議を行うことで、系統性のある研修内容が可能となるため、受講者は協議に向けて目的意識を持って臨むことができ、実践的指導力や幅広い知見等の向上を図ることができた。
  - ・第1日のオンラインによる講義では、全講義が教員としての資質・能力を向上させるための重要な内容であり、2年次の教員にとって、昨年度の取組(教育活動)を見直す契機となり、同時に今後の充実した実践へと示唆を与えるものであった。
  - ・第2日の参集型の研修では、班別協議※を実施し、講義動画で得た知識を基に、研究協議を行ったことで、受講生から「同期の仲間から様々なアイデアを吸収することができた」や「悩んでいることや困っていることに対する解決の糸口が見つかった」など、今後に向けた意欲の向上や研修内容の理解の深まりにつながるとともに、教員としての知見等が広がった。
- ※今年度は、中学校教員において、教科ごとに協議班を編制し実施した。

### 8 課題

- ・欠席者は、第1日19名、第2日6名であった。特に、第1日目の主な理由は、林間学校や部活動県大会の児童生徒引率による欠席であった。今後は、実施日の検討が必要である。
- ・協議題の柱や協議時間等、研修内容の充実を検討し、研修の質的な充実を更に図っていく。また、第2日の参集型研修では、受講者の総数や会場校の環境等に応じて、協議班数が変動するため、指導者数にも不足等の影響を伴うことから、研修実施形態を検討する必要がある。